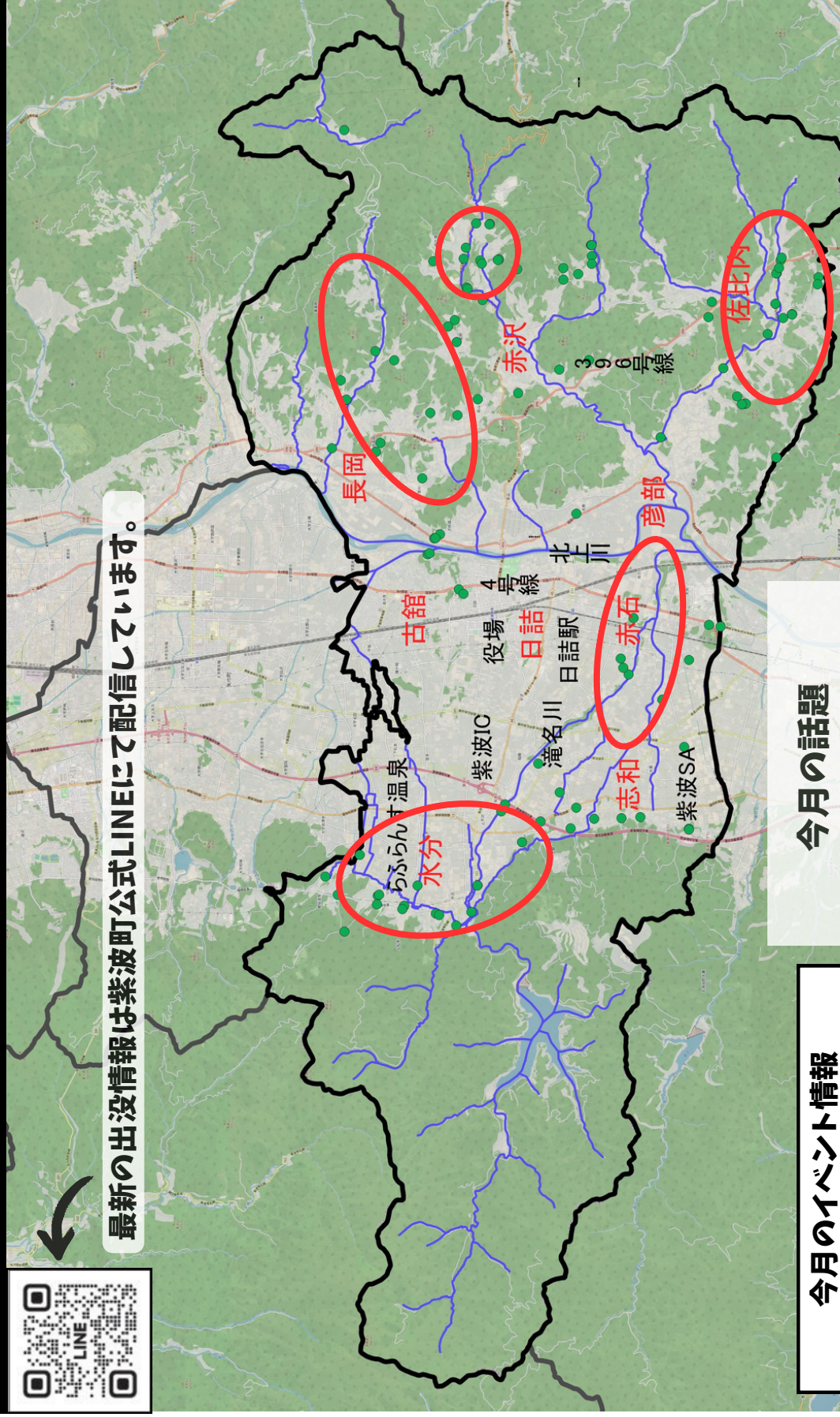


発行日 令和8年9月9日

紫波町におけるR1～R7年のクマ出没情報（9月）



最新の出没情報は紫波町公式LINEにて配信しています。



今月のイベント情報

第3回鳥獣被害から彦部を守るために

被害防止対策を学ぼう！実践編

9月26日(土) 9:30～11:00

開催場所:彦部公民館

今月の話題

クマスプレーの選び方！

出沒・被害警戒エリア

滝名川周辺、船久保地区、

佐比内地区など

紫波クマ通信

18号

発行

2026年9月9日

紫波町環境課

地域おこし協力隊

近藤雄太

9月のクマ情報

紫波町では8月に入ってからクマの出没件数は落ち着いてまいりました。しかし、川東地域ではぶどうやリンゴなどの果樹の被害も出始めており、園地周辺ではクマとの遭遇に注意が必要な状況が続いております。

今年度のブナの豊凶予測はおおむね豊作とされており、栗なども実り始めているのが確認されておりますので、9月以降もクマの出没は落ち着いてくると推測されます。ただし、クマはエサを食べた場所と時期を記憶しているため、昨年度クマが餌を目当てに出没をしていた場所には再びやってくる可能性もあります。農地であれば電気柵を張る、庭の木であればクマが来る前に実をすべて収穫するなどの対策を行っておくことがクマと遭遇しないために重要です。

9月ごろからはブドウや桃、リンゴなどの果樹が食べごろを迎えるため、クマによる果樹の被害が非常に多くなってきました。いくら山に食べ物があっても人の食べ物に執着しているクマは一定数がそれを目当てに人里周辺でも出没を繰り返す恐れがあります。一番クマに狙われやすい時期であるからこそ、電気柵の確認(電圧のチェック、最下段下を掘られていないか、線が切れていないかなど)を今一度行い、被害防止に努めてまいりましょう。



ちょっくとクマ知識

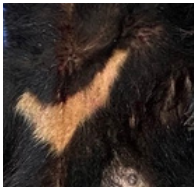
クマの数の数え方

岩手県のクマの推定生息数は昨年度の調査で5200頭と発表され、クマの数は増加傾向にあるとされた。このクマの生息数がどのようにして調査されたのかは知らない人が多いだろう。

最初に触れておくが、クマの生息数はあくまで推定であり詳細な数ではない。調査によってクマの生息密度(一定の面積に生息しているクマの頭数)を算出し、そのデータを元にクマの生息数を導き出したものだ。クマの数を一頭一頭数えているというわけではない。

それでは、どのような調査によってクマの生息密度を算出しているのかという話になるが、方法がいくつか存在する。代表的なものとしては「ヘア・トラップ法」と「カメラトラップ法」の二つが挙げられる。ヘア・トラップ法では有刺鉄線で四角形の囲いを作り、その中にクマの餌を吊るすことで誘き寄せられてきたクマの毛を有刺鉄線で絡めとり、毛に残ったDNAからクマの個体数を算出する。一方、カメラトラップ法ではクマの餌を高い位置に吊るしその正面にセンサーカメラを設置することで立ち上がったクマの胸の白い模様の形で個体を識別して算出する。

このような調査を行うことで各地域ごとにクマの生息数を把握している。



月の輪模様は個体によって違ってくる。



今月の話題

クマスプレーの選び方



先月環境省より「クマ撃退スプレーの性能に関わる推奨要件」が発表され、これまでクマスプレーを購入する際にどのように選んだらよいかわかられてきた方々にとっては一歩前進したと言えるだろう。しかし、今回発表されたものはあくまでも推奨要件であり、それを満たしていない製品であってもクマスプレーとしての販売を禁止するものではないという点には注意が必要だ。実際、悪質な製品の中には中身は別のものでありながらちゃんとしたクマスプレーのパッケージに似せたものやコピーしたものを使用している例もある。このような製品は特にネットで購入する際に異常に安い価格で販売されているような場合に多いので注意してもらいたい。

環境省が推奨するクマスプレーの要件としては、噴射距離7.5m以上、噴射時間6秒程度以上、霧状に広がる噴射パターンであること、手探りでも噴射方向が判別できることなどが挙げられている。

実際にクマが出没する現場で追い払い活動などを行っている私自身の考えとしては、クマスプレーは遠い距離のクマに対して使用するものではなく、あくまでクマが近づいてきたときに使用するものであるため噴射距離は5m以上、噴射時間は6秒程度以上が望ましいが、クマスプレーは基本的に1回で使い切るものであり(外から残量の確認ができないため、万が一の際に噴射できないという事態を防ぐため)噴射時間が長ければ長いほど良いとは言えない。発射機構については噴射方向が分かりやすく安全装置を外しても指を挟んで誤射を防げるトリガー式のものが望ましい。

クマスプレーは万が一の際に命を守ることに繋がるが、良いものであれば非常に高価になり、使い方を誤れば人にも害のある危険なものだ。クマに出会う頻度や用を想定する状況(山に入ってからなのか、畑での業中なのかなど)、予算などを考慮して、自身にとって本当に必要なものを選んでもらえるの一番だろう。クマの被害に遭わないためにも、入る際に迷うようなことがあれば役場環境課などへ相談いただければ手段の一つとして覚えておいていただければ幸いだ。

